

2024 年度 授業計画(シラバス)

| | | | | | |
|---|------------------------------------|---------------------|-------------------------------------|---|----------------------------------|
| 学 科 | 視能訓練士学科3年制 | 科 目 区 分 | 専門分野 | 授業の方法 | 実習演習 |
| 科 目 名 | 視覚生理学実習 | 必修/選択の別 | 必修 | 授業時数(単位数) | 30 (1) |
| 対 象 学 年 | 2年 | 学期及び曜時限 | 後期 | 教室名 | 1002教室、7階実習室 |
| 担 当 教 員 | 森 優 佑 | | | | |
| 実務経験と その関連資格 | 視能訓練士として、視覚生理学の知識をもとに視能検査、訓練に従事した。 | | | | |
| 《授業科目における学習内容》 | | | | | |
| ①問診を通して検査、診療の流れを把握し、その病態の理解、検査の組み立てを習得する ②症例から問診内容を予測し、検査を列挙し、実施、結果の予想、評価ができる。繰り返し模擬症例を実施することにより正常値や理論と実技が結びつくようになり臨床と関連づけることができる。 | | | | | |
| 《成績評価の方法と基準》 | | | | | |
| 試験40%,レポート40%、平常点20%(小テスト) | | | | | |
| 《使用教材(教科書)及び参考図書》 | | | | | |
| 視能学第二版/丸尾 敏夫,久保田 伸江,深井 小久子編集:文光堂,2011 プログラムフローチャートですすめる眼科検査法/湖崎 克監修,大阪医療福祉専門学校視能訓練士学科編著:滋慶出版,2017「現代の眼科学」金原出版 改訂第13版、視能矯正学改訂第3版 ケースで学ぶ視能矯正臨床思考/岡真由美,高崎裕子, 金原出版,2017 | | | | | |
| 《授業外における学習方法》 | | | | | |
| 視覚生理学の基礎を定着させ、その理論に基づき問診から臨床に必要な検査や技術、知識を確立させる。そのために眼疾患の知識を定着させておくこと | | | | | |
| 《履修に当たっての留意点》 | | | | | |
| 臨地実習で役にたつためのより実践的な演習を行います。ひとつひとつの症例に対してしっかり考え、問題指向型方式を身につけられるように基礎的なことは事前学習し、事後はさらなる自己で検討をされることを期待します。 | | | | | |
| 授業の方法 | 内 容 | | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
| 第1回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 光覚の基礎、光覚検査について学ぶ | 視能矯正学 金原出版 | 該当箇所を読んでおく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 光覚とは？光覚検査 | | |
| 第2回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 暗順応の検査と、その結果について理解する | 視能矯正学 金原出版 | 実習での症例を復習しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 暗順応曲線 正常、異常 | | |
| 第3回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人と小児問診の項目について学ぶ | 「現代の眼科学」金原出版 改訂第14版 プログラムフロー チャート | 問診のサンプルを調べて持参、それを参考に作成できるようにしておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 問診について(成人一般疾患) 講義、問診表作成 | | |
| 第4回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人臨床症例を作成し、問診、追加問診ができる | 「現代の眼科学」金原出版 改訂第15版 プログラムフロー チャート | 臨地実習Ⅱのノート持参 問診の方法を復習しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 成人症例作成、問診実施、それに沿って検査(成人疾患) | | |
| 第5回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人問診、追加問診ができ、そこから症例を想定し、必要な検査を考えられる | 「現代の眼科学」金原出版 改訂第15版 プログラムフロー チャート | 検査の結果を把握しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 成人疾患問診デモンストレーション発表 | | |

| 授業の方法 | | 内 容 | | 使用教材 | 授業以外での準備学習の具体的な内容 |
|-------|------|---------------------|-----------------------------------|---|---------------------------------------|
| 第6回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人問診から必要な検査を考え、選択、実施、結果の記載ができる | 全員の 実習記録 プリント | 実習記録の 発表準備 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 成人問診症例に対して検査① | | |
| 第7回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人問診から必要な検査を考え、選択、実施、結果の記載ができる | 全員の 実習記録 プリント | 実習記録の 発表準備 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 成人問診症例に対して検査② | | |
| 第8回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 成人症例結果を実習記録に書くことができる | 「現代の眼科学」金 原出版 改訂第15版 プログラムフロー チャート | 問診の方法を 復習しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 成人問診症例に対して検査、記録の書き方、記録作成 | | |
| 第9回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 小児の問診を作成できる | 「現代の眼科学」金 原出版 改訂第15版 プログラムフロー チャート | 臨床で使用 されている 小児問診表 を持参する |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 小児問診の作成(グループワーク) | | |
| 第10回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 小児の臨床症例を作成し、問診、追加問診ができる | 「現代の眼科学」金 原出版 改訂第15版 プログラムフロー チャート | 検査の結果を 把握しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 小児疾患症例作成、問診実施 | | |
| 第11回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 問診、追加問診ができ、そこから症例を想定し、必要な検査を考えられる | プリント、 教科書 | 検査の結果を 把握しておく |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 小児疾患問診デモンストレーション発表 | | |
| 第12回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 小児問診から必要な検査を考え、選択、実施、結果の記載ができる | 全員の 実習記録 プリント | 実習記録の 発表準備 |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 問診症例に対して検査① | | |
| 第13回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 問診から必要な検査を考え、選択、実施、結果の記載ができる | 実習室にて | 主訴から疾患を 予想し、必要 な検査を列挙 できるように |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 問診症例に対して検査② | | |
| 第14回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 結果を実習記録に書くことができる | 実習室にて | 主訴から疾患を 予想し、必要 な検査を列挙 できるように |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 問診症例に対して検査、記録作成 | | |
| 第15回 | 実習形式 | 授業を 通じての 到達目標 | 小児症例結果を実習記録に書くことができる | 実習室にて | 主訴から疾患を 予想し、必要 な検査を列挙 できるように |
| | | 各コマに おける 授業予定 | 小児問診症例に対して検査、記録作成 | | |